

平成29年度 第一回柏崎市交通安全対策会議 議事録

日 時 平成29年5月16日 午前10時00分から11時20分
会 場 柏崎市役所 4階大会議室
出席委員 竹原委員、東海林委員、本間（敏）委員、佐藤（孝）委員、池田（真）委員、若山委員、清水委員、小池委員、池田（弘）委員、佐藤（大）委員、今井委員、宮嶋委員、永寶委員、本間（精）委員、大沢委員、小林委員
代理出席 水澤委員（代理富澤氏）、近藤委員（代理田辺氏）
欠席委員 遠山委員
事務局 小菅市民活動支援課長、市民活動支援課生活安全係員

1 開会

2 会長あいさつ

3 委員紹介

4 議事

（1）平成28年交通事故概況（報告）について

－承認－

（2）平成28年度柏崎市交通安全実施状況報告（報告）について

A委員 3年間で2回の指摘を受けた自転車運転者は、講習を受講しなければならないというのを高校生に対して伝えているが、実際に講習が行われた事実はあるのか。

B委員 要請があれば各学校で交通安全講習は行っている。
(事務局追記：危険運転者に対する自転車運転者講習は県内では未実施とのこと。)

A委員 目につくものは学校で指導しているが、相変わらずスマホを見ながら運転していたりする。対応が甘いと感じる。

会長 実施状況報告によれば各高校でも自転車安全指導が行われているようだが、警察、高校それぞれが連携しながら、特に今、話にあがった自転車の安全指導が行われるようにお願いしたい。

C委員 二点質問したい。まず、緊急時における救急・救助体制の強化ということであるが、他の病気などに対する救急出動全体の中で、交通事故の対応に支障があるような、余裕のない状況は生じているのか。

C委員 もう一点、警察で交通事故の検証をしていると思うが、車両にこのような安全機能が備わっていれば事故が防げたと思われるような事例はあるか。

D委員 管内には6台の救急車が配備されているが、年間三千件～四千件近く救急出動を行うので、出動が重複することがある。重複する場合に若干の遅れが生じる場合もあるが、本署の救急隊が出払っていても西本町から駆けつけるなど、遅れが無いように対応している。

B委員 多少の統計はとっているが、今のところ、これを付けていたら事故を防げたというものは無い。

事故の一義的な責任は運転手にあり、自動ブレーキが付いていたとしても、作動したかどうかは現場では大きな問題としていない。

自動運転を過信した事故も実際に起きているようである。

—承認—

(3) 第10次柏崎市交通安全計画(案)について

C委員 重点施策にある高齢者の交通事故防止の目標について、「死亡者全体に占める高齢者の割合を50%未満にする」とのことだが、全体の死者数が減ってきている中で、全死者が2人で高齢者の死者が2人であれば100%になる。逆に若い人の事故が増えればこの数字が下がるというような見方もでき、違和感がある。

事務局 当然、全世代で交通事故を減らすことを目標にしているが、現状で交通事故死者数全体に占める高齢者の割合が高いことに加え、高齢者は交通事故に遭った際に重症化する傾向があることからこのような形で重点施策として掲げている。

ご指摘のとおり、分母となる全体の死者数が減ってきているため、数字がばらつくことは承知しているが、高齢者の死亡事故をできるだけ減らしていきたいという意図で目標を設定したことをご理解いただきたい。

C委員 高齢者の割合だけがクローズアップされるのはどうかと思う。高齢者だけが事故の割合を高めているように受け取られかねない。

事務局 大きな目標としてまず、死亡事故ゼロを目指している。その中で4つの重点施策を個別に実行することによって、結果的に交通事故、特に死亡事故を減らすことができるのではないかと考えている。

E委員 道路交通環境の整備に関連して、昔はバス停周辺の縁石が黄色く塗られていたのではないか。

過去に、バス停付近に駐車してしまったことがあるが、縁石が黄色く塗られていなかったため、駐車禁止であると分からなかった。

F委員 バス停から10m以内の箇所は法定で駐停車禁止となっている。

E委員 バス停であることが見えるようになっていないと、うっかり駐車してしまうことがあるのではないか。

会長 バス停であることが分かるように標示することが義務付けられているかどうか、この場では即答できないので、調査して回答させていただく。

また、先程の高齢者の交通事故防止に関する目標についても、工夫できる部分があれば検討してもらいたい。

G委員 計画(案)中にある路上遊戯事故防止のための公園等の整備に関連があるかどうか分からないが、自分の町内では子どもたちが道路上でスケートボード、キックボード、一輪車に乗っているのを目にする。

道路交通法上、遊具は交通の頻繁な道路でなければ乗ることができるようだが、飛び出し事故につながる恐れがある。

学校から指導するとか、公園や広場を整備するとか、何か対策はないか。

H委員 数年前、市内の中学生がスケートボードの類の物に乗っていて大怪我をした事例があった。

事故を受け、指導の強化をしてきたところだが、新しい種類のものが次々に出てきており、実態の把握、指導の徹底が難しい。

スポーツとして一生懸命に取り組んでいる子どもがいる反面、危険な場所でルー

ルを守らないで使用する子どももいることから、安全を第一に考えて指導していきたいと考えている。

G委員 子どもたちに「あれもいけない」、「これもいけない」というのではなく、もっと自由に遊ばせてあげることができないのかと思う。

会長 スケートボードに関しては要望があり、佐藤池運動広場の一角に確保したスペースを愛好者が利用しているので、ご紹介いただきたい。

先程、H委員からお答えいただいたが、基本的には子どもの安全を確保するのは親の責任であると考えます。

本日、PTA連合会からも出席いただいているが、こういったご意見があるということをお伝えさせていただく。

C委員 個別の話になってしまい、計画の内容にそぐわないかもしれないが、最近他県の警察でドライブレコーダーを貸し出しているところがある。

例を挙げると、鹿児島県警では全警察署に貸し出し用のドライブレコーダーを配備し、映像により自分の運転の問題点を気付かせる取組をしている。

計画の中にこういった具体的な取組が入るのであれば、これも一案ではないかと思う。

もう一つ。公用車をパトカーと同じ塗装にして、日常的に運用している自治体があると聞いたことがある。

防犯面でも役立っているとのことなので、今後、塗装することを検討してはどうか。

B委員 ドライブレコーダーの貸し出しについては、現在のところ行っていないが、県警では高齢者が歩行体験し、歩行・判断能力を診断できる歩行環境シミュレータを運用して講習を行っている。

パトカーと同じ塗装にすることについては、警察車両と混同されることを防ぐため、現在、新潟県では遠慮していただいている。

会長 提案いただいたアイデアも含め、今後も警察と協議したいと考えている。

G委員 自分は子どもを対象とした自転車教室などを行っているが、法律が変わると古いDVD教材などは使えなくなるため、常に法律に適合した教材を備えていただきたい。